

Ⅲ. 応募内容ファイルについて (添付ファイル項目) 様式S-1-7

※以下①～⑧については、基盤研究(A・B)(一般)の様式で例示しています

①「研究目的(概要)」欄

○審査委員が研究目的を端的に把握できるように、研究目的の概要について簡潔に記述してください。(「基盤研究」「挑戦的萌芽研究」「若手研究」が該当します。)

様式S-1-7 応募内容ファイル(添付ファイル項目)

基盤A・B(一般) - 1

研究目的

本欄には、研究の全体構想及びその中で本研究の具体的な目的について、冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述した上で、適宜文献を引用しつつ記述し、特に次の点については、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述してください。(記述に当たっては、「科学研究費補助金(基盤研究等)における審査及び評価に関する規程」(公募要領62頁参照)を参考にしてください。)

- ① 研究の学術的背景(本研究に関連する国内・国外の研究動向及び位置づけ、応募者のこれまでの研究成果を踏まえ着想に至った経緯、これまでの研究成果を発展させる場合にはその内容等)
- ② 研究期間内に何をどこまで明らかにしようとするのか
- ③ 当該分野における本研究の学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義

※基盤研究(S)の様式のみ

- ④ 基盤研究(A)に、本研究と関連する研究課題を応募している場合には、到達目標等の相違点、また、関連のない研究課題を応募している場合には、研究内容等の相違点(該当者は必ず記入してください。)

※補足：基盤研究(S)のみ該当

研究目的(概要) ※ 当該研究計画の目的について、簡潔にまとめて記述してください。

枠内に研究目的の概要を簡潔にまとめること。

破線の位置を変えないこと。(下に広げないこと。)

②「研究計画・方法(概要)」欄

○審査委員が研究計画・方法を端的に把握できるように、研究計画・方法の概要について簡潔に記述してください。(「基盤研究」「挑戦的萌芽研究」「若手研究」が該当します。)

基盤A・B(一般) - 3

研究計画・方法

本欄には、研究目的を達成するための具体的な研究計画・方法について、冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述した上で、平成24年度の計画と平成25年度以降の計画に分けて、適宜文献を引用しつつ、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述してください。ここでは、研究が当初計画どおりに進まない時の対応など、多方面からの検討状況について述べるとともに、研究計画を遂行するための研究体制について、研究分担者とともに研究計画である場合は、研究代表者、研究分担者の具体的な役割(図表を用いる等)、学術的観点からの研究組織の必要性・妥当性及び研究目的との関連性についても述べてください。

また、研究体制の全体像を明らかにするため、連携研究者及び研究協力者(海外共同研究者、科研費への応募資格を有しない企業の実験者、大学院生等(氏名、員数を記入することも可))の役割についても必要に応じて記述してください。

研究計画・方法(概要) ※ 研究目的を達成するための研究計画・方法について、簡潔にまとめて記述してください。

枠内に研究計画・方法の概要を簡潔にまとめること。

破線の位置を変えないこと。(下に広げないこと。)

③「今回の研究計画を実施するに当たっての準備状況及び研究成果を社会・国民に発信する方法」欄

○指示書きの3点について、具体的かつ明確に記述してください。(特に「③の本研究の研究成果を社会・国民に発信する方法等」の項目については、「研究成果をどのようにしたら分かりやすく社会・国民に公表(発信)できるのか」という視点で記述してください。)

基盤A・B(一般) - 6

今回の研究計画を実施するに当たっての準備状況及び研究成果を社会・国民に発信する方法

- 本欄には、次の点について、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述してください。
- ① 本研究を実施するために使用する研究施設・設備・研究資料等、現在の研究環境の状況
 - ② 研究分担者がいる場合には、その者との連絡調整の状況など、研究着手に向けての状況(連携研究者及び研究協力者がいる場合についても必要に応じて記述してください。)
 - ③ **本研究の研究成果を社会・国民に発信する方法等**

①～③の点について、具体的かつ明確に記述すること。

④「研究計画最終年度前年度の応募を行う場合の記入事項」欄

○新たに応募することができる研究種目は、「特別推進研究」、「基盤研究」です。但し、「若手研究(S・A・B)」の研究課題を基に、新たに応募することができる研究種目については、「基盤研究」のみとなることに留意してください。

研究計画最終年度前年度の応募を行う場合の記入事項(該当者は必ず記入してください(公募要領17頁参照))

本欄には、研究代表者として行っている平成24年度が最終年度に当たる継続研究課題の当初研究計画、その研究によって得られた新たな知見等の研究成果を記述するとともに、当該研究の進展を踏まえ、今回再構築して本研究を応募する理由(研究の展開状況、経費の必要性等)を記述してください。(なお、本欄に記述する継続研究課題の研究成果等は、基盤A・B(一般)-10の「これまでに受けた研究費とその成果等」欄には記述しないでください。)

研究種目名	審査区分	課題番号	研究課題名	研究期間
				平成 年度～ 平成24年度

当初研究計画及び研究成果等

応募する理由

該当しない場合は記入欄を削除することなく、空欄のまま提出すること。

⑤「研究業績」欄

- 研究種目によっては、最近5カ年間の業績に限定している場合と、そうでない場合がありますので、様式の指示書等を確認しながら作成してください。
- 研究代表者及び研究分担者の業績が次頁以降にわたる場合は、その後に連携研究者の業績記入欄を設けてください。
- 同一の論文等を研究代表者、研究分担者、連携研究者で共同執筆している場合は、それぞれの業績として別々に記入するのではなく、いずれか一人のところにのみ記入するようにしてください。

基盤A・B（一般）－7

研究業績	
<p>本欄には、研究代表者及び研究分担者が最近5カ年間に発表した論文、著書、産業財産権、招待講演のうち、本研究に関連する重要なものを選定し、現在から順に発表年次を過去にさかのぼり、発表年（暦年）毎に線を引いて区別（線は移動可）し、通し番号を付して記入してください。なお、学術誌へ投稿中の論文を記入する場合は、掲載が決定しているものに限りま。</p> <p>また、必要に応じて、連携研究者の研究業績についても記入することができます。記入する場合には、二重線を引いて区別（二重線は移動可）し、研究者毎に、現在から順に発表年次を過去にさかのぼり記入してください（発表年毎に線を引く必要はありません）。</p>	
発表年	<p style="text-align: center;">研究代表者・分担者氏名</p> <p>発表論文名・著書名 等 （例えば発表論文の場合、論文名、著者名、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年（西暦）について記入してください。） （以上の各項目が記載されていれば、項目の順序を入れ替えても可。著者名が多数にわたる場合は、主な著者を数名記入し以下を省略（省略する場合、その員数と、掲載されている順番を○番目と記入）しても可。なお、研究代表者には二重下線、研究分担者には一重下線、連携研究者には点線の下線を付してください。）</p>
2011以降	<p style="text-align: center;">研究代表者には二重下線。</p> <p>1. 論文名 半蔵門太郎、○○○○、▽▽▽▽（他8名、1番目） ××学会誌 9巻 査読有 51－58（2010）</p> <p>2. 論文名 □□□□、麴町一郎、●●●●●●（他5名、2番目） ◎◎学会誌 3巻 査読有 120－125（2010）</p> <p style="text-align: right;">学術誌への投稿中の論文を記入する場合は、掲載が決定しているものに限りま。</p>
2010	<p style="text-align: center;">研究分担者には一重下線。</p> <p>3. 論文名 半蔵門太郎、▽▽▽▽（他4名、1番目） ◇◇論文集 12巻 査読有 78－86（2009）</p> <p>4. 論文名 永田町男、学術仙太、☆☆☆☆（他2名、1番目） ☆☆学会誌 15巻 査読有 95－101（2009）</p> <p style="text-align: center;">研究代表者・分担者欄全体の通し番号を付す。</p>
2009 ・・・	<p style="text-align: center;">連携研究者欄は二重線で区別し、研究代表者及び研究分担者の業績を記入した後に欄を設けること。（二重線は移動可。但し記載欄は削除しないこと。）</p>
連携研究者氏名 （所属研究機関・部局・職）	<p>発表論文名・著書名 等 （研究代表者及び研究分担者の研究業績として上欄に記載したものは記載しないでください。）</p>
学術 仙太	<p>1. 論文名 学術仙太、○○○○（他6名、1番目） ■■ジャーナル 20巻 査読有 21－24（2009）</p> <p style="text-align: center;">連携研究者には点線の下線。</p> <p>2. 論文名 学術仙太、◆◆◆◆（他2名、1番目） ▽▽学会誌 4巻 査読有 63－68（2009）</p> <p style="text-align: center;">連携研究者欄内での通し番号を付す。</p>

⑧「設備備品費の明細・消耗品費の明細」欄

- 何をどれだけ購入するのか、できるだけ具体的に記入してください。
- 年度毎に線を引いて区分してください。また、年度ごとに合計金額を記入してください。
- いずれかの年度において、「設備備品費」が全体の研究費の90%を超える場合には、当該経費の必要性を「研究経費の妥当性・必要性」欄に記述してください。

基盤A・B（一般）－13
(金額単位：千円)

設備備品費の明細			消耗品費の明細	
[記入に当たっては、基盤研究(A・B)(一般)研究計画調書作成・記入要領を参照してください。]			[記入に当たっては、基盤研究(A・B)(一般)研究計画調書作成・記入要領を参照してください。]	
年度	品名・仕様 (数量×単価) (設置機関)	金額	品名	金額
24	○○システム (～～社製 型番 00-00) 一式 (内訳) ・○×装置 ・□△○器 ・モニタ用PC ☆☆大学	12,000	○○○○ ○△○△ ☆○☆○	500 80 800
	計	12,000	計	1,380
25	△△式◇◇検出器 (仕様・・・・・・) 1台 ☆☆大学	3,500	□○□○ ○○○○	300 500
	□□装置 (型番 A999) 3台×@900 ☆☆大学、★★大学	2,700	□□□□ ▽□▽□	10 90
	計	6,200	計	900

記入に当たっては、研究計画調書作成・記入要領を十分に参照してください。

⑨「旅費等の明細」欄

- 行き先、期間等、できるだけ具体的に記入してください。
- いずれかの年度において、「旅費」または「人件費・謝金」が全体の研究費の90%を超える場合、及び「その他」において特に大きな割合を占める経費がある場合には、当該経費の必要性(内訳等)を「研究経費の妥当性・必要性」欄に記述してください。

基盤A・B（一般）－14
(金額単位：千円)

旅費等の明細 (記入に当たっては、基盤研究(A・B)(一般)研究計画調書作成・記入要領を参照してください。)								
年度	国内旅費		外国旅費		人件費・謝金		その他	
	事項	金額	事項	金額	事項	金額	事項	金額
24	打合せ ○○大学 2日間	70			▲▲実験補助 5人×8日	200	～～分析委託	1,500
	▲▲実験 ☆☆研究所 4日間	150					ホームページ 作成費用(研究 成果発表用)	300
	計	220			計	200		1,800
25	打合せ ○○大学 2日間×3回	210	学会発表 ロンドン 7日間	800				
	資料収集 ○○研究集会 4日間	150						
	計	360	計	800				

「その他」については、設備備品費、消耗品費、旅費、人件費・謝金のほか当該研究を遂行するための経費が該当します。研究計画調書作成・記入要領に例示を示しておりますが、例示以外のものでも該当するものについて記入することができます。

⑩「研究費の応募・受入等の状況・エフォート」欄

研究代表者の応募時点における「(1) 応募中の研究費」、「(2) 受入予定の研究費」、「(3) その他の活動」、について、次のことに留意し、それぞれの状況を記入してください。

- 「(1) 応募中の研究費」、「(2) 受入予定の研究費」欄には、科研費のみならず他の競争的資金制度についても記入してください。
 - 複数の研究費を記入する場合は、線を引いて区別して記入してください。
 - 所属研究機関内で競争的に配分される研究費についても、「(1) 応募中の研究費」、又は「(2) 受入予定の研究費」に記入してください。
 - 所属研究機関内で、研究活動等を職務として行うため一律に配分されるような基盤的経費については、「(1) 応募中の研究費」、又は「(2) 受入予定の研究費」に記入する必要はありませんが、そのような経費を活用して行う研究活動等のエフォートは「(3) その他の活動」に記入してください。また、科研費の連携研究者として参画している研究課題に係るエフォートは、「(3) その他の活動」に記入してください。
- また、科研費の連携研究者として参画している研究課題に係るエフォートは、「(3) その他の活動」に記入してください。

研究代表者のみ作成・添付

基盤A・B（一般）－15

研究費の応募・受入等の状況・エフォート

本欄は、第2段審査（合議審査）において、「研究資金の不合理な重複や過度の集中にならず、研究課題が十分に遂行し得るかどうかが」を判断する際に参照するところですので、本人が受け入れ自ら使用する研究費を正しく記載していただく必要があります。本応募課題の研究代表者の応募時点における、(1) 応募中の研究費、(2) 受入予定の研究費、(3) その他の活動、について、次の点に留意し記入してください。なお、複数の研究費を記入する場合は、線を引いて区別して記入してください。具体的な記載方法等については、研究計画調書作成・記入要領を確認してください。

- ① 「エフォート」欄には、年間の全仕事時間を100%とした場合、そのうち当該研究の実施等に必要となる時間の配分率(%)を記入してください。
- ② 「応募中の研究費」欄の先頭には、本応募研究課題を記入してください。
- ③ 科研費の「新学術領域研究（研究領域提案型）」又は「特定領域研究」にあつては、「計画研究」、「公募研究」の別を記入してください。
- ④ 所属研究機関内で、研究活動等を職務として行うため一律に配分されるような基盤的経費については、「(1) 応募中の研究費」、又は「(2) 受入予定の研究費」に記入する必要はありませんが、そのような経費を活用して行う研究活動等のエフォートは「(3) その他の活動」に記入してください。

上段に平成24年度に本人が受け入れ自ら使用する直接経費の額（分担金として配分する額を含まない。応募中のものは応募額）を記入し、下段に（ ）書きで研究期間全体で受け入れ自ら使用する直接経費の総額（予定額）を記入。

連携研究者として参画するものは記入不要。

資金制度・期間（配分率）	代表・分担の	平成24年度の研究経費（期間全体の額）(千円)	エフォート (%)	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由 (研究代表者(又は拠点リーダー等)のようにプログラム全体の研究費の受入研究者)の場合は、研究期間全体(又はプログラム全体)の受入額を記入すること)
【本応募研究課題】 基盤研究(A) (一般) (H24~H26)	代表	7,000 (20,000)	20	研究期間全体の直接経費の総額：40,000千円
基盤研究(S) (H24~H28)	代表	10,000 (40,000)	—	研究期間全体の直接経費の総額：150,000千円 ××××××××××××××
基盤研究(C) (H24~H26)	分担	500 (1,500)	5	重複応募が可能であっても、重複して採択されることのない種目を記載する場合は「—」を記入。 ××××××××××××××
○○○プログラム (H23~H27)	代表	50,000 (20,000)	30	プログラム全体の受け入れ額：1,000,000千円 ×××××××××××××× ××××××××××××××

研究分担者等の場合、上段に平成24年度に本人が受け入れ自ら使用する分担金の額（予定額）を記入し、下段に（ ）書きで研究期間全体で自ら使用する分担金の総額（予定額）を記入。

「研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由」欄に、科研費の研究代表者である場合は研究期間全体の直接経費の総額を、「グローバルCOEプログラム」の拠点リーダーのように、プログラム全体の研究費の受入研究者である場合には、プログラム全体の受入額を記入。

研究費の応募・受入等の状況・エフォート (つづき)						
(2) 研究費の受入等	資金制度 期間 (配分)	○△○○○ (●●●機構)	割 表・ 目 別)	平成24年度 の研究経費 (期間全体の額) (千円)	エフ オー ト (%)	研究内容の相違点及び他の研究費に加え て本応募研究課題に応募する理由 (研究代表者(又は拠点リーダー等のようにプログラム 全体の研究費の受入研究者)の場合は、研究期間全体(又 はプログラム全体)の受入額を記入すること)
	◎◎助成事業(H22～ H24) (●●●機構)	○△○○○	代表	1,000 (4,000)	10	事業全体の受け入れ額: 20,000 千円 ×××××××××××××××× ××××××××××××××××
	◆◆推進費(H23～ H25) (◇◇大学内公募資 金)	□□○○ (★★★★)	分担	1,500	5	×××××××××××××××× ××××××××××××××××
	(3) その他 (1)、(2)の 記入して	特に名称のない研究機関内公募資金 等は、当該資金の内容がわかるような 名称を記入。	の エフ オー ト を		30	
合 計 (上記(1)、(2)、(3)のエフォートの合計)					100 (%)	

【その他注意事項】

1. 平成24年度公募について、文部科学省及び日本学術振興会ホームページ上に研究計画調書の応募内容ファイルを、関係通知と併せて掲載しています。研究計画調書の応募内容ファイルの作成に当たっては、ホームページから応募内容ファイルの様式をダウンロードして作成してください。
2. 例年、提出(送信)された研究計画調書の中に、白紙のページや、他の研究課題の応募内容ファイルが添付されているものが見受けられますが、そのままの状態では審査に付されませんので、十分注意してください。
3. 研究計画調書は審査資料ですので、極端に小さい字、行間、字間の狭いものなど、読みづらいものは避けてください。
4. 電子申請システムによって入力された研究計画調書のデータは来年8月末で消去する予定ですので、必要に応じて各機関で保存等行ってください。
5. 平成24年度公募から、若手研究(A・B)を分けて、それぞれ若手研究(A)、若手研究(B)と別様式になっていますので、ご注意ください。